

銀座はさむかゝとした気持になるほど色褪せ、汚ならしくなつてゐるのに、やつぱり人は多く出てゐます。食堂と云ふ食堂の前には相かはらず長蛇の列です。もう馴れ切つた調子で、通行人をじろくみたり、物を読んだり、なるたけ日かげをさけて。鉄カブトを背に、老いたるも若きもすべてゲートルと戦斗帽姿。美松とオリンピックとで怪しげなものを、さんざん並んだ後たべる。みんなあれだけ辛抱強く待つたあげくにありつく食べ物だのに、ちつとも嬉しさうでなく「俺は何を食はされてるんだらうな」と云ふ風に不機嫌な顔つきです。それでも待つてゐる人間よりはまだいい。實際この頃外でたべさせられるものひどさと云つたら。舌をさすやうな悪臭のある、食べたあとでマスクなんかかけると、自分でも嫌になるやうな口臭が出て来る、そんなものばかり。どこの食堂でもみんな同じやうな臭がしみつてゐる。渋谷の東横グリの臭です。悪くなる直前のくじらのにほひやら何やら。それでも此の頃蛋白質を殆どとるあてがないので、やむを得ません。それに、こんなに毎日人々が怪しげなものを食べながら、相変らず街に作られる列が少くはならん所を見ると、「以前なら豚でも食はんだらうね」と云はれるものでも、別にすべての人を腹痛でなぎ倒すほどでもなささうです。それとも人々の消化器が豚のそのやうになつて了つたのか。

本室へ行つて本田さんに頼まれてゐた本を渡し、凶南社で一冊本を買ひ、日本橋の柳屋の前で、しまつた空瓶をまた忘れて来たどと悔み、地下鉄で虎の門まで。コールドクリームを買ふのに此の頃空瓶引きかへです。空いたのがあつたら送つといて下さい。此の頃毎日石炭をつかみ炊事をするので、手が荒れてすぐひびが切れたり、タキツケの木を折つても手に傷がつかます。ひげそりにも石鹼は使ひたくないで、可なり前からコールドクリームを買はうと思ひながらいつも空瓶を忘れて行くのです。虎の門では特許局の裏の綜合インド研究室を訪ねて、鈴木正四から原稿をうけとる。彼はまだ旅行から帰らないらしい。

プシがもしつかまつたら、歩いて経堂へ抱いて行かねばならないので、早く行かねばと急いで原宿まで行きました。あの辺も大きい家は大分疎開したらしく、何とか寮と云ふ札のかかつたのが多い。尤も例の一角だけは元のまま。「ごめん下さい」と辻岡さんへは入る。「あら、お珍らしい。あけましておめでたうございます」「ムニヤク（口の中であいさつ）、プシがあらはれるんですつて」「ええ、十一月末ごろから出て来たのですよ。よく二階へ来て日なたぼつこしてゐますわ」「今ゐるかしら」。するとそばにゐたあき坊（だつたかしら）がどんくくと二階の段ばしごをかけ上る。「何でもずつと下の方へ、ずい分遠くへ行つてゐたらしいんですよ」「プシゐないよう。今ゐない」「ああさう、有難う。プシつかまるかしら」「うん、ぼくいつでもすぐつかまへるよ。抱いてやるんだよ」「ぢや今度つかまへてお電話下さい

ませんか。すぐやつて来ますから。歩いて経堂まで行くから午前中の方がいいです」「ぢやさうしませう。本当に可哀さうなんですよ。最初ね、プシの声がするんでせう、プシく〜て呼ぶとちやんとなくんですよ。だけどちつともうちの方へ来なくて、お宅の方の玄関やら二階やらをぐる〜まわつてなくんですの。だけど今のお隣、二人とも猫嫌ひでせう。結局は入れずに二階のうちの屋根で日なたぼつこするか、どこか遠くへ行つて了ふんですよ」「さうですか、でもよく生きてゐましたね。どこにゐたのかしら。十一月末と云ふと、五月からだから六ヶ月ですね。よくあんな甘え猫が、こんなご時勢に生きぬいて来たものです」「奥さんからお手紙来ましてね、昨日私の方からお出ししましたわ」「もうとどくころだよ。おじさん(おぢさん)」「まだですよ。時々うちで呼んでごはんをやるのですけれどね、家にも猫がゐるものだから、は入つて来ないのでですよ」「ぼくのおさかな、やつたよ。プシに」「さう、それはありがたう。あ、これですか、新しい猫ですね、可愛い猫ぢやありませんか」と、出て来た中くらしいの大きさのきじ猫をだきあげる。このきじ猫は、プシの虎斑がそのまま、きじ斑になつたと云ふ形で、胸から腹が白く尾も短く、顔までプシに似てゐるんです。「可愛い猫だな」「今度は男猫なんです。前の猫ね、大家さんがやかましいでせう、何をとられたかをとられたとか云ひましてね。だから可哀さうだけれど、つて来りましたの。今度のはおとなしくていい猫ですよ。プシと仲がよくて、しじゅう一緒にゐるんですよ」「さうですか。プシに似てゐますね」「今度坊やを疎開させるので、その猫どうしようかと思つてゐるんですよ」「僕ほしいな。プシがつかまつたらいいけれど、つかまらなかつたらこの猫貫はうかしら。でもこの猫、プシの友達なら、プシから友達をとることになつて可哀さうだなあ。一匹ともほしいですよ」「ぢや猫のしまつに困つたら、貫つていただかうかしら」「プシ、やせましたか」「さうですね、そんなにやせたやうに見えませんが、やつぱり毛がよごれましてね。可哀さうですよ。もう大分おじいさんでせう。物をたべるのにも、よだれなんかこぼして、見てゐると可哀さうなんですよ」「さうでせうね。僕も余りくわしくきくと、泣いて了ひさうなので困つて、こちらからはきけないのです。おどくしながら食べることだらうと、あの顔を思ひ出すと、本当に涙が出て来ました。それにしても六ヶ月もどこでどうして過ごして来たのでせう。之まで一週間と家をあげたことがないのに。人間が、昔なら豚も食はんやうなものを食べて生きてゐるやうに、猫も昔ならどぶ鼠も食べなかつたやうなものを食べて生きてゐることが出来るのかしら。「では本当につかまへたら、御面(ごめん)外でも御電話下さい。すぐやつて来ますから」と云つて引きあげて来ました。下の方へよく行くと云ふので、帰りは大河内家の辺から下の方をずつとまわつてみましたが、浅原や今井正に会へたやうにうまく会ふことは出来ませんでした。

帰つたら、あなたの五日付のお手紙と小包とが届いてみました。小包みは何だらうと思ひながら、手紙にも何も書いてないので、本当に書籍かしらと思ひながらあけて、途中から、ああさうかと気がついたが、やっぱりさうだったので大いに嬉しく思ひました。早速半分づつにかけて、半分を紙袋に入れ、之は数日中にいねちゃんに届けませう。今日はくたびれたから。本当にどうも有難う。此の頃米ばかり、野菜はかぶばかりで、毎日同じものをたべてちよつと嫌になつてゐたところなので、とりわけ嬉しく思ひました。早速やいてたべました。僕もあなたの誕生日も送らずに來ましたが、今朝為替をくんで來たので、とりあへずお金だけ送ります。前便にも書いたやうに、百円はあなたへの借金返済、百円がプレゼント。物も買ってありますが、こはれたりするといやです。僕が行けたらその時持つて行くか、桃ちゃんが來た時たくしませう。大したものぢやないけれど。

お身体の具合やつぱりよくないですね。こんな所にゐて何もしてあげられないけれど、どうか自愛して下さい。

アナトール・フランスの、天使の反逆や現代史の残り、ないので。現代史は本田さんからかりられるかもしれないが。ピエール・ノジュールは、いつかお父さんか桃ちゃんへプレゼントしたと思ひます。新潮文庫です。花盛りは買ひこなひました。探しておきます。「白き石の上にて」はあるでせうね。ジャンヌダークを、たばことお茶と一緒に送りませう。短篇集は七つあつたと思ふが。「エピキュールの園」は「我が友の書」と同系統で、僕の好きだつた本です。僕のおしやべりの材料もずい分その「園」から得たのをあなたも知るでせう。

僕は今バルビユスの「地獄」を読んでゐます。この「ビュビュ」と「地獄」のある本は、あなたへ送りませう。小此木君から借りたものですが。

「地獄」の一番はじめに、「忘れもしない、幼時から私には多量に感覚のひらめきと神秘的な感激があつたものだ。そしてとかく自分の過去の事ばかり考へて引込み思案に耽る傾向が病的と思はれるほど強かつたものだ。私は自己を他人に例のないもののやうに買ひ被つてゐたものだ。さうして私は他より数等勝れてゐるやうに考へ込むに至つたのである。が、そんな気持も月日が経つと共に段々と消えて行つて了つたのだ」とあります。この所で僕は森井さんの手紙の次の所を思ひ出した。

「拙い筆で自分の生ひ立ちの記をかくことで、わかっていただけるか考へ、頭の中でそれを組み立ててみたらなども致しましたが、結局、或る点―問題の私の精神生活の内容といふ所で、とても云ひ尽せない、わかっていただけの苦がないと自身の精神生活の變の多様さに表現の匙を投げ出すより仕方がないのでございます」。そしてまた彼女の次のや

うな言葉も。「私のやうな人間はきつと非常に少いのでせう」。

所がバルビュスは、さう云ふ気持も月日と共に、外界現実との接合の深まりと共に消えて行つて了つたのに。

だが僕は、スタイリストと云ふものを、スタイリスト自身に告白させることによつてしか克服出来ないと思ふのです。スタイリストと云ふものについて、検討することも必要だと思ふのです。いづれにせよ、インテンシヴ（内向型）の精神動態が外界に対する自己閉鎖としてあらはれ始めたのが、一九世紀後半、インテリゲンチヤが自己の歴史的意義に確信を失ひ、社会及び歴史の力に自信を失つて後の現象であることが、バルビュスやジイドにもはつきりあらはれてゐるのでせう。バルビュスはさう云ふ自己閉鎖を克服したが、ジイドは反対だつた。クラルテや砲火も読みたいし、「スターリン伝」も読みたいと思ひます。バルビュスのスターリン伝は恐らく一番読まねばならぬものの一つかも知れません。尤も三〇年代の初めまでだから、一番大切な部分（三〇年代）が含まれてゐないことになるが。シヨパンのプレリュード十五番（雨滴）は仕上げました。今三番にかかりました。では今日は之だけ。

### 謙一から幸子あて（一九四五年一月九日の記）

一月九日（火）曇晴

今朝は撰氏六度で曇つてゐるせい<sup>(2)</sup>か、十二月以来殆どはじめてのやうな霜のない日でした。気温は低くないが、日が照らないといかにも寒さうなので、コンロを二つ起しました。今年はコンロのおかげで去年のやうな霜やけにはならないかはり、ひびが切れさうです。やつぱり右手がひどい。

午前中に本（白き石、ジャンダーク、母）とたばこのは入つた小包と為替とを出しました。三十分近く並ぶのです。「中味何ですか」「おいもの干したのとたばこ」。「之は何ですか」「たばこ衣類」と云ふ風に、たばこを送る人が多い。何日ぐらいかかることかしら。

おひるに久しぶりに空襲警報が出ました。先月廿八日以来のことぢやないかしら。夜半のは少数機で、大てい空襲警報が出ません。「敵も相当なものだね。今朝あれだけ曇つてゐたのに、午後になつたら晴れるとちやんとわかつてたんだらうね」「それはどうだか。だけど晴れてる方が盲爆されなくていいさ」。

第一編隊は静岡から関東西南部へは入り、帝都上空を通らずまづすぐ関東北部（太田とやらに中島の工場がある）へ行

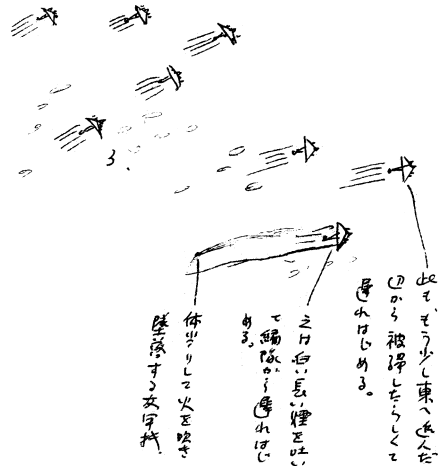


き、暫くしてそこから西南進して帝都には入りました。四機だが西風が強いらしくて、西へ向ふのが停止してゐるやうに見える。之はいつも通る中央線の上空を八王子の方へ向つてゐるのです。ここから見ると、六、七十度（地上から）北寄りに見えます。第一編隊がこの真北に平行に來た時、西の方から同じ線を逆に東進する四機があらはれました。之は第二編隊で八王子の方から都心に進むのです。間もなく上図のやうに行きがちがつて、第一は西南へ進路を変へ、第二はそのまま東進しました。友軍機らしい白点が時々そのまはりに見えたが、青い水の中を白いいかが足をひいて泳いでるやうな敵機は、そのまま進んで行きました。本当にいかかくらげのやうに見えます。何れも四本の白煙（余り長くない）を引いてゐて。高度は七千米ぐらいでせう。いつも乍ら銀色に光つて敵機のきれいさは全く見惚れるほどです。パッパッパッとねずみ色の高射砲弾の煙が周囲に出来て行きます。

天軍

はじめ頃は伊豆半島から富士山の東側を通つて、小田急に沿ふやうに東京へは入るか、または北進して八王子辺に出て、中央線を東進するのがまじりでしたが、此の頃は大きい静岡からは入つて、富士山の西をまわつて八王子へ出るやうです。また房総半島から東京湾のふちに沿つて来るのや、鹿島灘からは入つて西南進してくるのやら、いろいろです。此の頃は月があげ方の二十何日月で殆どないも同然なので、この間中のやうな夜半に來て月夜の漫步と云ふやつをやらなくなりました。

間もなく第三編隊が西南からあらはれました。今度は八機で、上図（次の頁の上）編者注のやうに、六千米ぐらいの高度で青空を進んで來ます。やはり中央線沿ひの上空なのでせう。丁度経堂のま北あたりへ來た時、露台で見ると、この家の棟の方向に平行にま北に（荻窪か阿佐ヶ谷）來た時、東から白い点のやうな友軍機が、敵編隊最左翼の一機へ向つて正面からツツと近づいたかと思ふと、あつと云ふ間に接触し、とたんにまつさをな空に美事なほど、巨大な火花のやうなまっ赤な火を吹いて友軍機が空中分解したらしい。敵機もいかなの足のやうな飛行雲と別に長い濃い目の白煙を引いてだんかゝ遅れはじめたが、友軍機の方は灰色の煙を弧型に引いて黒点となり、空気中へ消え失せるやうに墜落して行きました。「凄いい火を吐いたね、敵も落ちるね」。みんな東へまっすぐとび去つた敵編隊を見送つたが、たしかにあれは落ちるでせう。



今日はあなたの四日付お手紙が届きました。五日付のとあとさきしました。同盟週報は僕も買つてゐるのですが、中々買へません。誰かに頼んでおかうかと思つてゐます。買つたら送りませう。あなたのでせうね。そんなら僕の買ひ置きもそつくり送つて、あなたに保存しておいてもらひませう。こちらでは分室を見られますから。お餅は八日につきました。

今日の夕方、火を起さうとしてゐたらいねちゃん came したので、炭とお餅をあげました。炭は余りいい炭ぢやないが配給になつたので。僕は石炭をつかふから炭はめつたに使はないが、すぐ起したりするには炭の方がいいので、とつておく必要もあります。いねちゃんは何かまた質問をもつて来たのかも知れないが、今日は僕の部屋で帰りがけの堀江、竹中、八木、松村、西井の諸君が、がやぐとノートラをやつてゐたので、二、三日中にいねちゃんとこへ、また炭をもつて行つてあげるからと云つて、帰へしました。

スメドレーは森井さんから借りて送りませう。小田中さんにさきに読ませるかも知れませんが。バンクヘッドはアラバマ出身で、農業関係の法律は大ていさうらしい。尤もバンクヘッドは一人ゐて John Hollis Bankhead (1872) William Bankhead (1874) 兄弟が親戚らしく、J.H.の方は上院議員で、Wm.の方は下院議員です。どちらもアラバマ州ラムル郡(ラム)で、法律家で、民主党で、特に J.H.の方はいろいろ農業に関係してゐるやうですが、くはしくはわからない(改良主義プランターかもしれない)。農業関係の法律は J.H. (上院議員)の方です。併しバンクヘッド自身はジョージ・ノリスのやうな特に注目すべき人物ではなささうです。ノリスの方は T・V・A の名と結ばれ、西部農民自由主義者の驍将です。ウォレスもさうです(現副大統領)。民主党第一主義と日本主義とはちよつとちがひます。よく似てみえるがやはりちがふ。民主党第一主義の意義は、僕が発見したやうなものです。むろん今迄の人も考へてはゐるが、その全意義をはつきり把握したのは、とにかく僕です。だから第四章のあのあたりはよく読んで下さい。

今日は白田君から小使さんにたくして手紙が来ました。九州へ二週間行つて来て、七日に帰つて来たらしい。工場入りの不首尾で、彼女大分反省したやうです。結局彼女は、まだはつきりした自分のものをもたなかつた。僕の話をきいてゐる時は僕流に考へようとし、森井さんの話をきいてゐると森井さん流に考へる。その森井さんから工場入りをもち出されて、ついそのまま行く気になつたのでせう。それが不首尾になつて彼女はすっかり自信がなくなつた。

九州へ行く前に森井さんは彼女に「何でもいいから結婚してしまひなさい。そして苦しみなさい。あなたは追ひつめられて逃げ場がなくならなければ苦しまないから」と云はれたので、「さうしようと思つて殆ど決定するつもりで」九州で彼女の兄の友人と見合ひをしたのださうだが、「やはり出来ません。……嫌なところは全然ないし、いわゆる結婚の相手としたら上の部でせう。話してもみました。でも駄目なのです」。

この事なんです。僕が森井さんに決定的に反対したのは。「白田さんの本心は結婚したがつてゐるんだから、結婚させて苦しませるといい」と森井さんは僕にも云つたのです、三日の日に。「それは断然いけない。白田君が結婚したがつてゐるのが本心であつても、さう云ふ風な形で結婚と云ふものを考へるのは罪悪なのだ、人間関係の真実に敵対するものなのだ、と強く教へて阻止せねばならないのに。僕が竹中君にこんなにしつこく反対するのは、見合結婚と云ふやうな人間関係の不合理、不合理な人間関係の苦しみ、を世の中から一つでも少くしようと思ふからなんです。我々が個人として何に最も苦しんで来たし今も苦しんでゐるか。我々は我が国の社会の解放の不充分を意味する、解放されざる人間関係、不合理な不正な人間関係、に一番苦しんで来たし、現に苦しんでゐる、個人生活の中では。そしてさう云ふ不合理な人間関係の基底的なものが、家族制度であり、内容で結びつかない家庭、夫婦、結婚の関係なんです。日本人の個人生活に於ける最大の決定的戦場は家族制度と云ふものだ。家族制度が戦場だと云ふ意味は、家族制度の中へは入つて苦しみたかへと云ふ意味では全くない。反対に、さう云ふ不合理な人間関係から自他を解放すること、自他を解放するために戦へと云ふことを意味する。若い世代に対して、お前達は苦しみようが足りない、もつと人生を苦しみなさい、と云ふのもいい。だがその苦しみが、不合理な人間関係を作らせること、見合結婚をして苦しめと云ふのは、まるで世の不幸な母親達が、自分達が余りにも家族制度に苦しめられて老いたために、嫁にも苦しめと云つて苦しませると同じだ。世の母は、さう云ふ人間性を毀損するやうな苦しみを、もう娘達に苦しませたくない、自分達が苦しんで来ただけでもう沢山だ、自分達が苦しんだのは、若い世代に同じ苦しみをさせたくないからだと云はねばならぬ。人生を苦しむとは、人生の否定的な面で苦しむことでなく、人生の創造的な面で苦しむことだ。人生を不合理

にすることで苦しむのではなく、人生を解放するために、自らをも他をも解放するために苦しむことだ。それこそが人間の苦しみであり、人間をきたへる、真に人間的たらしめる苦しみだ。若しすべての人が、家族制度や不合理な人間関係の中で苦しまねば人間的に成長しないと云ふなら、人間社会と云ふものは、いつまでたつても進歩と云ふことがない。そんな風に云つたのです。それについてまだ森井さんははつきり返事してゐない。僕が、「結婚と云ふやうな決定的に重大な問題で妥協するやうな人間は、他に何にも創造的なことは出来ない」とか「恋愛以外の結婚と云ふ人間関係は罪悪だ」とか、いろいろ云つたその一つ一つの言葉には、同意せざるを得ないらしかったが、結局「あたしは別の生き方をもつてゐるのです。やつぱりあなたとはちがふのです。だからこの問題はよしませう」と云つて、今後かう云ふ問題以外のことで話したいと云つたのですから。

だから僕は最後に書いた長い手紙で、さう云ふ人生の重大事で意見をただしあふことをよして、ギリシヤ悲劇の勉強をやらうなんて、僕は理解に苦しむ。僕は森井さんがいろんな問題について自己閉鎖的で、之まで多くの人と話し、人から聞く、と云ふ風なことをしなかつたので、余りよく考へてゐないのだらう、さうとしか思へない、と書いて行きました。そして僕が疑問とすること、臼田君に工場入りをすすめたかと思ふと結婚をすすめる、生活的現実で討論をよしてギリシヤ悲劇で「具体的に」話して行きたいと云ふ、愛と云ふものを神秘化する、「論理をこえた真実」なんかを認容する、目標は同じだが方法がちがふのだと云ふ（方法がちがふと云ふことは世界観がちがふと云ふことだのに。目標よりも方法が重大で、その方法と云ふのも正しいのがいくつもあるのではなく、いつでも本当に正しい方法は一つしかない、その唯一つの正しい方法の為に凡ゆる論争があるのだのに）等々、彼女の矛盾を一々指適<sup>さしあた</sup>して、之等は世界観の相違としか考へられない、だが、「あなたも目標が同じだと云ふ言葉で恐らく世界観は同じ方向にあるのだと云はうとしてゐるなら、世界観の成熟の程度がちがふのだらう、あなたはまだ充分よく考へてゐないのだらう、それならもつと討論することこそ必要だのに」と書いておきました。

とにかく臼田君の方が脈がある。「本当に救ひやうのないオブローモフなんです、歴史に参加する資格のない人間なんです、さうではないとおつしやつて下さい。まだ脈があるとおつしやつて下さい。九州からの帰途、暫くどなたの話もきくまい、私も話すまいと思ひましたので、森井さんにさう申上げました。でも貴方にお暇とお気持がおありになつたらいらつして下さいませ、眠りこけてゐるならたたきおこして下さいませ」と云つて来てゐるのですから。

僕も、小田中さんが帰京したら（目下松本へ行つてゐる）みんなに「ブランテイション」の講義をしようと思つてゐる



のです。森井さんも参加するならして下さいと云っておきました。いねちゃんもきくでせう。いねちゃんは時々質問をもつて来ます。

では今日は之だけ。

### 謙一から幸子あて（一九四五年一月一〇〜一一日の記）

一月十日（水）晴

一月八日付の御手紙拝受。僕の手紙が届いてゐないさうですね。今年になつてからは一月二日か三日、六日か七日、九日、十日と四回出してゐます。カレンダーがなくてつけられないのですが、此の手紙は本年度No.5になるわけです。利ちゃんは、今痛むわけでもないの、東京でやることにしたと、No.2の手紙でたしか書きましたね。

B29南信へも来ましたか。此の頃また毎夜あらはれ始めました。このまを通らないので（やや北寄り）寐てゐますが、近くに高射砲があつて、窓にひびく凄惨な音でよく射ち出します。B29の爆音がだん／＼近づいて、すぐ側（四、五丁はなれてゐるのでせうが）の高射砲がドカン／＼と鳴つて、半鐘の音と一緒に「タイヒ、タイヒ」と叫ぶ声がすると、やつぱり気持よくありません。大てい此の頃は眼をさまして、ラジオのスキッチをひねつて聞き耳たてるだけで、高射砲がなると、破片が屋根をつらぬく恐れもあるので、「クワバラクワバラ」と時代がかつた呪文を口の中で考へつつ、ふとんをかぶつて眠ります。高射砲と云へば、九日の昼の空襲では、日本橋の本室の近くで空を見てゐた女の二人が、高射砲の不発弾で即死したさうですから、ブッソーですね。

お父さんのお風邪はその後いかがですか。タバコを送りましたから、早くつくといいが。あとまたすぐ送りませう。パン茶を少し買へたので一緒に送りませう。昨日は小包と為替と二つとも郵便局へ出してすぐ空襲でせう。千歳郵便局のすぐそばに高射砲があるさうですから、こいつが鳴つてバクダンか焼夷弾を郵便局へ落されたら、よく／＼運が悪いと云ふことになるわいと思つたものです。

今日はアナトオル・フランスの懐疑主義について書いてみませう。アナトオル・フランスは十九世紀末懐疑主義の代表者のやうだが、それ以前にどう云ふ懐疑主義があるかと云ふと、フランス・ルネサンスのデカルト、モンテーニュ、それからぐつとさかのぼつてギリシヤ末期の（ヘレニズム時代）ピュロン（之が所謂スケプティズムの本来本元）、

それからエピクロス、エピクロスをさかのぼるとデモクリトスにまで行く。外に詭弁派（ソフィスト）がある。スケプティズムにもいろいろあるが、思想上のスケプティズムの大潮は大体右のやうです（デモクリトス、ピュロン、エピクロス、ルクレチウス、ソフィスト、モンテーニュ等についてはフォアレンダーの哲学史、またはシュヴェグラーを参照）。

デモクリトスのスケプティズムは、常識的知、感覺的知に対する懷疑だと思ふ。デモクリトスは世界の唯物論哲学の最初の最大の代表者です。原子論（世界は微細の原子の凡ゆる種類の複合から成るとした）の創始者です。彼はとにかく現象的知識、表面的認識について懷疑し、より本体的知識、より奥深い法則の認識を主張するのです。彼は一切の常識的な現象的な知識や認識に満足しない。さうして現実の本質、本体、真実を追求する、その彼の追求の結論が、世界は物質的原子から成ると云ふ命題です。この場合のスケプティズムは弁証法的です。そして問題はより進んだ世界認識、世界観努力にある。之より少しおくれソフィストが出る。ソフィストは「弁証」論者、即ち論理技術者とも云ふべきもので、論理の矛盾を追求する（ゼノン）。彼等は物の矛盾、論理の矛盾をバクロするだけで、デモクリトスのやうな体系的な世界認識を導き出さない。それにソフィスト達（ソクラテスもその一人）の特に注目したのは、デモクリトスのやうな、人間社会をも含めての世界認識（世界観）でなくて、もつと倫理的な問題です。人間社会の風俗や倫理です。だからソフィストは教育者でもあつた（ソクラテス）。彼等は社会の倫理の既成のもの矛盾をあげて、より真実な倫理を建設しようとした。併し多くのソフィストは論理技術者に墮した。

ヘレニズム時代になるとギリシヤ社会は爛熟し、知識は大いに進むが、もうギリシヤ人達は歴史の主体たるの自信を持ち得ない。デモクリトス時代のやうな社会上昇期の、歴史的な進路に自信をもつた時代とはちがふ。そこで世の中の凡ゆる矛盾、もはや歴史前進力を失つた奴隷制社会の一切の矛盾が、高度の知識人達の観念を満足させず、それを前進もさせない。ギリシヤの叡智は歴史から遊離して、その絢爛たる無内容を展開しはじめ。ギリシヤ彫刻はその発達した形象力を以て美事な芸術を作り出さうとするが、歴史的内容を失つてゐるために、彼等のとらへるものは、無内容なパッションである。かう云ふ時代のスケプティズムは、ピュロンの場合、やはり倫理学的に出て来る。苦しく希望のない時代、この時代の無内容な形式上の絢爛に懷疑する。彼等は歴史を信頼出来ない、しかも歴史から遊離した時代の開花にも満足しない。彼等は歴史を人生を懷疑する、そして解脱を欲求する。時代の混乱の中に自らの歴史的進路を見出し得ないギリシヤ的叡智は、一切の懷疑の中に解脱を見出し、平安を見出す。さうでせう、何にもより所がなく、たしか

こと（歴史）がわからないやうな時代には、疑ふこと、相対主義、の中により精神の安住は見出せないでせう。歴史を信頼し得ない叡智は、人間をも、知識（歴史的に無力な）をも信頼し得ない、信頼しようと思きになると裏切られ転倒させられるから、一切を信頼しないと云ふ態度をとる、さうすると裏切られもしないし精神の動揺もない。

だからピュロンは一切を信頼しない懷疑家であるのに、道徳的には実に立派な人だった。彼は社会的悪を歴史的に解決し得なかつたので、観念的に個人的に解決または解脱したのです。そしてピュロンは印度の思想に影響されてゐる。印度もまたヴェダの時代の後になると社会悪が甚だしくなり、民衆はそれを歴史的に解決し得ず、ここに解脱救済の欲求と思想とが起つて、仏教なんかが生れる。仏教は歴史的輪廻（リンネ）（歴史が進むのでなく果てしなく希望なきくり返へししかしないと云ふ悲しい認識。インドの社会の苛酷さの反映）を業（ごう）と見て、現実の業から脱却すること教へる。それも一つの現実の解決だが観念的解決である。かくてインドの懷疑思想は歴史、人生、苦しみでしかない現実への懷疑であり、それを一切を無、空、と観ずることによつて自らをその永却の苦から脱却する。

デモクリトスもシヤカから少し後に印度まで行つて、インドの懷疑思想を知つた筈だが、彼はギリシヤ的な歴史的向上の現実の中で、そのインドのスケプティズムの内容を承認し得ず、認識（世界観的、世界認識的）のための懷疑と云ふことだけを撰取した（撰取なのか自己の創出なのかわからないが）。所がピュロンになると時代はインド的に近い。だからピュロンのスケプティズムは、インド思想の影響が大きい。即ち、世界観、世界認識が問題であるよりも、解脱、個人的身の処しかた、精神の平安、が問題です。タイスの中にもピュロンのスケプティズムが出て来ますね。エピキユロスも同じ時代です。彼にあつても問題はピュロンと同様に、歴史的希望のない時代の叡智の安住欲求です。彼もまた歴史、人生、認識、に信頼出来なかつた。彼もまた一切を懷疑した。

ここまで書いたらサイレンです。電灯を消します。以下、明日書きませう。

一月十一日（木）曇

昨日につづいてエピクロスを書かうと思つたら、ダイヤモンドの松沢氏の電話で、新聞研究会で何とか氏の世界情勢講

□があるからききに來ないかと云つて來たので、行つてみませう。  
これはこのまま出します。

## 謙一から幸子あて（一九四五年一月一日の記）

一月十一日（木）曇雨（一時）

昨夜の続き（手許に材料が全然なく、思ひちがひしてゐることもあると思ふが、どうか読んで下さい。そして僕の結論について、あなたも考へて下さい）。

エピキュロスはピュロンと同時代人。やはり歴史的前進内容を失つたヘレニズム時代の思想家の一人。この時代の文化的絢爛と社会的政治的頹廢・不健全・無希望との矛盾から生れた哲学に三派ある。ピュロンの懷疑主義派とエピキュロス派（感覺主義）とストア派（道徳主義、主知主義）。

懷疑主義は歴史、人間に対する懷疑を基礎として、人間の認識力を懷疑する。人間は真理を認識し得ないではないか、一切の永遠の真理と思はれるものもすべて相対的ならつろひ行くもの、むなしいものではないか、一切のは矛盾ではないか、さう云ふ矛盾だらけの認識を頼りにするから、精神は不斷に動揺させられ、不安になり苦しくなるのだ、だから我々は何ものも絶対的なものとして信頼せず、すべてを懷疑することによつて、精神の安定をはかるべきであらう。かくてピュロンは、人間の理性も感覺も信頼せず、一切の懷疑と相対主義の中に精神的平安を見出した。かくの如きが歴史的に希望のない不正不健全の世に於ける知識人、知識の無力を思ひ知らせられた知識人の一つの生き方だつた。

ストア派は、やはり感覺を信用出来なかつた。だが彼等は知性または理性を信頼した。理性のみが眞実を認識し得る。だが歴史的に眞実なるものの感じがたい時代であつたから、彼等は個人的に理性を以て考へぬかれた峻厳な道徳主義、個人的道徳的完成に精神的平安と生き方、生存価値を見出した。彼等は理性を感覺から切りはなして唯一つの人間認識力としたために（実は理性は、感覺知の進んだ段階に外ならず、感覺こそ認識力の外界との交接機関であるのに）、感覺を拒否し禁欲主義となり、反自然主義となつた。ストア派はキリスト教主義と共通する要素が多い。何れも感覺的なものを退け、自然なものを退け、禁欲主義であり道徳主義である。たゞ一方は哲学的に思索理性を通じてそこへ行くのに、他方は宗教的に信仰と愛とを通じて行く。殊にキリスト教主義が、初期の「愛」の内容をうすめて道徳的禁欲主義、現世拒否、天上幸福希求を強め、やがてローマ帝政によつて支配のイデオロギー体系に転化させられる頃には、ストア

哲学とキリスト教主義の反自然主義、禁欲主義、ドグマティズムは、アリストテレスの教義と共に封建道徳の主軸に適合させられて行つた。哲学は宗教の侍女となり、全中世は、キリスト教とストア哲学とアリストテレス主義との混合発展たる神学によつて、精神的に支配されるやうになつた。

エピキュロスはストア派に反して、感覚に重きをおいた。彼は感覺的知を信用したわけでない。むしろ感覺の頼りなさを、人間の認識力の頼りなさを知り、人間の認識力を懷疑した。その点ピュロンに似てゐる。だが彼はデモクリトスの唯物論哲学を継承した。デモクリトスも感覺的知を懷疑したが、彼は感覺と理性とを切りはなさず、感覺的知や常識に満足してはいけない、もつと深く物の本体へ理性を以ては入つて行かねばならないとした（唯物論）。所がエピキュロスは感覺を信用しなかつたにも拘らず、その感覺より外に認識の直接受容器がないのであるから、之を拒否出来ない、さりとて感覺と理性とのデモクリトスの統一は、時代の不健全、歴史的内容の欠除に於て考へがたかつた。エピキュロスにとつてもまた、ピュロンやストア派と同様に、末世に於ていかに生きるか、歴史的本道のない所でいかに生きるか、不正な現実の中でいかに生きるか、が問題だつた。倫理学が問題だつた（歴史上向期のデモクリトスには、倫理学よりも、倫理学をも含めた世界観がより問題だつた）。だから彼は現実に対する懷疑を、感覺主義の独断で克服しようとした。太陽は眼に見える大きさでないだらう、眼は物の実体を把握出来ないのだから。だが我々は太陽の大きさは眼に見える大きさ、三寸直径か四寸直径の円盤であると思へばいいではないか。感覺でやつて行つてやつて行けないわけぢやないのだから、どうせ信用出来ないにしても、感覺の自然を受け入れて行けばいいではないか。だから彼は一切を懷疑した上で、感覺の自然を受け入れた。この点ストア派と正反対だつた。我々にとつてエピキュロスが、同時代の懷疑派やストア派よりも興味深いのは、他の派は倫理学以外の面で貧弱であるのに反して、エピキュロスがデモクリトス哲学の延長として自然哲学、世界觀的面をもつ点である。エピキュロスもデモクリトスを承けて原子論を主張した。所がやつぱり時代の差があらはれる。歴史的前進時代のデモクリトスにとつて、歴史は必然的に進むことを見たデモクリトスにとつて、原子運動や自然の發展の必然性は自明であつた。人間はその必然性を中々認識し得ないにしても、自然、人間、歴史は必然の理法を以て運動してゐる。之に対して歴史の必然を信じ得ない没落期の人間であつたエピキュロスは、原子運動に偶然性をとり入れた。彼にとつて必然性のみでは世界を理解出来なかつたのだ。このエピキュロスの原子論の偶然要素は、彼の感覺主義、自然主義と照応してゐるのでせう。

さう云ふのがエピキュロスであつた。そしてエピキュロスの感覺的唯物論は、神を否定した。神とは人間認識のあちら

こちらの空所に住むものにすぎない。その空所を美しくはするが、本当に神々が実在すると云ふものでない。このエピキュロスに没落期ギリシャ文化、ヘレニズム文化の典型があらはれてゐる。ストア派がローマ人に多く受け入れられたのに対して、エピキュロス派はギリシヤ人に受け入れられた。エピキュロスの世界観的要素はローマの詩人ルクレチウスに継承されて、「神々は渴く」の中のプロットウ爺さんが愛読しておかぬ「自然の性質」に美事な結実をした。所が末期的時代には、エピキュロスの世界観的要素よりも、倫理的要素の方が継承者が多く、殊にその感覚主義が俗流化されて、エピキュリアンとは享楽主義者のことになつて了つた。その為にキリスト教主義はエピキュロス派を最も敵視し、中世に於てはエピキュリアンの享楽主義と一緒に、エピキュロスの感覺的唯物論、自然主義、友情主義その他一切も拒否され、ほうむられて了つた。

エピキュロスを歴史的埋没から掘り出したのは、ルネサンス時代のフランス哲学者ガッセン<sup>(註)</sup>デイであつた(ルネサンスの主流は、中世神学の中にキリスト教主義と合体したアリストテレス主義を、プラトン主義によつて否定する形であらされた。イタリア・ルネサンス等のヒューマニストとはプラトン主義者、新プラトン主義者(プロチノス)であつた)。ガッセンデイはデカルト等と共に、フランス・ルネサンスの哲学的代表者であつて、機械論的唯物論者であつた。彼はエピキュロスの感覺的唯物論と自然主義とを再認識したのである(此のガッセンデイはモリエールと交際した。僕はモリエールを読んでゐる中に、モリエールのドラマツルギーの中に、エピキュロスの偶然原子論の要素を感じたので、しらべてみると、やはりモリエールがガッセンデイと交はり、ガッセンデイがエピキュロスの再認識者だつたと云ふ事実を知つたのです。モリエールの喜劇には「偶然」と云ふ要素が実に面白く出て来る。人生の或るドラマに対して、自然かまたは人為的の偶然が働いて、事件を解決して行くでせう。例へばタルチュフ。一家へは入り込んだ偽善者のありかたを普通の形で、事件の必然の経緯で、解決出来ないと思つた時、妻女は芝居をやりませう。あの芝居が人為的偶然なのです。さう云ふ手法はモリエールでは実に多いでせう。だからつい僕はエピキュロスの原子運動を聯想したのです。そして調べてみたのです。この問題をいつか本田さんに話し、北条君に話したら、非常に興味をもたれました。むろんまだ之だけでは、この二つは結びついたと実証出来ないが、実証出来たらドラマツルギーと哲学との関係について、新たな材料を加へることになるでせう)。そしてこのエピキュロスの諸要素が当時のフランス文化の代表者達、モンテーニュやパスカル等の懷疑主義やその他へは入りこんで行つたのだと思ふ。デカルトは認識の為の懷疑、即ちデモクリトスの懷疑の近代的确立者です。「我思ふ、故に我在り」。之は一切を懷疑し、最後に懷疑出来ないものが、「我思ふ」で

あるとし、故に我は在ると云ふ現実の唯物論的肯定を導き出したのですから。

モンテーニュの懐疑主義は、デカルトとちがつて、デモクリトスよりエピキュロスの生きた時代と、モンテーニュの時代とに、若干の相似がある。それはモンテーニュの場合は歴史的前進期であつたと云へ、やはり文化的絢爛がフランスでは、民衆の内容と一体にはなり切らなかつた。フランス・ルネサンスの都市文化は、産業や民衆に結びつくよりも（イタリア・イギリス・オランダのやうに）王権の政治力に結びついた。だからフランス知識人は、他の国のルネサンス人よりは、都市的粹、名人気質等を余計にもち、凡ゆる実践的能力の乏しい知識人、民衆の力と結びつかない知識の所有者にある懐疑主義が生れたのでなからうか。そしてこの懐疑はまた、教権や教義（ドグマ）、宗教的なもの、封建的形式主義道学、等への懐疑でもあつた。

アナトール・フランスの懐疑主義もまた、カソリシズムへの懐疑を主流とし、その限りでモンテーニュ的であり（十八世紀のフランス無神論者の懐疑主義をも含む）、またヘレニズム時代に似た十九世紀末（世紀末時代）の知識人のありかたとして、エピキュロスのと云へる。だから彼は「エピキュールの園」を書き、「タイス」を書き、また「神々は渇かない知識人の一つの典型であり、個人主義的な精神平安の固持者であり、自然主義者であり感覚主義者であり、老人のエロティシズムをもち、革命の必然を理解しながらそれと合体出来ない人間です。アナトール・フランスは自らの中にプロットウを見ながら、プロットウ的なありかたを歴史的に否定せねばならなかつた。彼はプロットウに個人的愛惜をもちながら、エヴァリスト・ガムランに対する歴史的愛着を以てプロットウを否定せねばならなかつた。

アナトール・フランスの懐疑主義を考へながらギリシヤまで辿つてみましたが、こんな風に見ればわかるのぢやないでせうか。そして真に正しい懐疑とはデモクリトスの、デカルト的なもの（不可知論Ⅱカント等も之と似てゐるが、本質的に差がある）でなければならぬ。デモクリトスの、デカルト的懐疑は、懐疑「主義」ではない。だがアナトール・フランスの前半期のスケプティシズムには、やはり懐疑「主義」がある。だがそれはヒューマニスティクなもの結びついてゐた為、自らのスケプティシズムを克服出来た。それはデモクリトスのものへと自己を克服して行く傾向をもつた。併しとにかくアナトール・フランスの十九世紀末的傾向はどうしてもなくなり切らない。

こんな風を書いて来て気がついたことは、僕等の考へねばならぬ問題の一つに、世界観努力と生活努力との統一と云ふことがあると云ふことです。世界観努力と生活努力（倫理努力）とは、もつとあつさり云ふと理論的努力と実践的努力

です。だが、特に世界観努力と倫理努力と云ふ風には、理論的努力の中にこの二つを分別したいからです。哲学者がそれです。哲学に世界観努力と倫理努力とが常に含まれてゐる。凡ゆる偉大な哲学は倫理努力を含んだ世界観努力です。タレス、ヘラクレイトス、デモクリトス、アリストテレス、プラトン、デカルト、スピノザ、ベイコン、ライブニッツ、デイドロ、カント、ヘーゲル、マル・エンに到るまで。それらに於ては倫理と世界観とは統一され、特にマル・エンに到つて、歴史的人類的な内容に於て統一される。

所が、第二流の哲学者に於ては、この二つは緊密に統一されない。即ち、世界観的な要素よりも倫理的要素が強くなる。この倫理的要素が強くなるのは、哲学者の質よりも時代の性質による。即ち時代が歴史的向上期にある時は、世界観努力と倫理努力とは、前者の中で統一される。所が、歴史的下向期に入ると、世界観と倫理とは分裂する。世界観の要求する行為（歴史的）は、歴史的主体（民衆）と明白な結びつきを失つて個人的にあらしめられ、個人的行為は現実の不正とたたかふ時、極めて無力であつて妥協を強ひられる。かくて人々にとつて、倫理学（現実に対して、いかに処すべきか）が特に重要になる。之がエピキュロス、ピュロン、ストア派、または近代の多くの哲学者達のありかたでせう。俗流哲学者になると、二つは完全に分裂し、世界観的要素はどうでもよくなり、倫理要素も現実といかにたたかふかではなく、現実といかに妥協するかの問題になつて了ふ。即ち倫理努力は処世術になつて了ふ。

我々も之まで、この二つを常に体験して来た。過去の或る時代には、世界観努力と行為努力（生活努力、倫理努力）とは割合ひ簡単に統一出来た。或る種の生活へ参加すれば、それだけで二つは統一された形をとつた。問題は自分の生活に移すと云ふことだけでさへある場合が多かつた。所がさう云ふイメージな統一は何等真の統一でなかつた。歴史の波が退き潮になり、さう云ふ種類の生活の足場が、丁度退き潮の時の砂のやうにくづれて行くと、世界観と生活とは分裂した。世界観は世界観であることをやめて、倫理（自己の行為の合理化）になり、「生活の探究」の著者の如き場合は「処世術」になつた。世界観にこそ不十分があつたののに、人々は世界観は出来てゐる、ただ生活の力がないだけだ、だからせめて世界観に反しないやうに、ささやかに行為しよう、現実と妥協しよう、それが梟口であり、外に生き方はない、かくの如くなつた。

我々がこの十年間努力して来たことは、分裂させられようとする世界観と倫理との統一であり、世界観努力と倫理努力との統一だつた。そして幸ひ僕は、世界観努力の中へ倫理努力を統一する方向をとり得た。だから僕にとつて、一切は世界観の不十分が問題であり、世界観が凡ゆる帰結をもつほど強力にされねばならないのだとして、その方に努力した。



我々が愛情の問題を考へ、文学その他を勉強し、歴史を勉強したそのすべては、世界観努力の中にもかくも統一された。現実には僕達を負かし傷つけ転倒もさせたが、とにかく世界観努力をすてず、その中へ現実の敗北をも吸収し、新たな歴史の時代へと自己を保存し鍛へた。今その道にある。

所が僕が反対する人々は、世界観努力（今の時代に出来る最大の任務）を軽視し、従つて倫理努力が不徹底になつてゐると云ふ人々なのです。森井さんが僕を「論理で固めて行爲する」と云ふのも、一面本当ですね。即ち我々は世界観を現実へ適合するやうにうすめるのでなく、逆に、生活を現実と妥協させないやうに世界観を強化すると云ふやりかたをしてゐるのですから。生活を世界観へ従属させる形をとるのですから。

そして僕は、生活主義よりも、自分の行き方の方が正しいと信じてゐます。今後も生活の現実では、自らの無力を思ひ知らされ、苦い妥協も強ひられて行くにしても、僕は世界史の中に依り所を求めつつ、断じて世界観努力をやめますまい。そして世界観努力の徹底の中で、現実との生活的斗ひを能ふ限り誠実にやつて行きたいと思ふ。

アナトオル・フランスのスケプティズムについて考へることも無益ぢやなかつたですね。それと云ふのも、アナトオル・フランスのスケプティズムが、いい加減なものでなく、真実の欲求をもつてゐるからです。これはどうしても考へてみる必要があると思はせるものがあつたからです。

今日はこんな手紙で、肝腎の生活のことをちつとも書けなかつたが、それは明日書くとしませう。

### 謙一から幸子あて（一九四五年一月一二日の記）

一月十二日（金）晴風

昨日は交詢社の慶応クラブで何とか云ふ人の国際情勢の話をききました。いつか僕が南部のことをしゃべつた、あのクラブなのです。ダイヤモンドの松沢氏が電話でさそつてくれたので。現代の世界政治のイギリスの位置について面白い話でした。

竹中君とは連絡なかつたのですが、ちゃんと来てゐて、帰りに二人で、今にも雨になりさうな銀座を歩きました。僕はアザラシ革のサツ入れを買ひました。金二十二円五十銭也。今までの、たしか昭和十二、三年頃買ったのでしたね。

余りみずばらしくて買はうと思つてはゐるが、此の頃、サツ入れは殆どどこにも売つてゐなかつたのです。カネ

ボウの横丁に露店のおでんか何かに並んでみると、ヒヨコのタタキを小さいダンゴにして、二つづつさした串焼を二串で一円二十銭。それを産業戦士やらオツサンやら紳士やら僕等みたいのやらが、列になつて二皿も三皿もたべるのです。僕達も二皿たべた。僕は昼食を食べてゐなかつたのです。

夕食の食へる頃までゐて、何か栄養を補給したいとは思つたが、さうすると火を起しにくくなるので三時半頃に帰りました。此の頃は四時半頃に火を起さないと、暗くなつてからサイレンがなつたら大変です。夕食は此の頃おきまりの小松菜と大根との雑炊。夜になつて雨になつたらしいが、この夜三回空襲があつて起きました。曇つた日は盲爆されるから起きねばなりません。

今朝起きてみると、雪がうつつすらとつもつてゐました。此の頃六時半に起きますが、まだ暗いですね。今日もお天気は上々らしく、東の空はバラ色でした。ところが午後になつて風がひどくなり、ほこりを吹き上げて、いやな日になりました。こんな日に空襲あつてはたまらない。

鶴田君の電話で、「プランティション」は今月中に刷り終つて来月ぐらゐに出るだらうとのこと。しびれがきれますね。あなたからお手紙が昨日今日届かない。僕の手紙も届いてゐないらしくて、どうも不便ですね。身体の具合はどうですか。寒くて元氣ありませんか。

僕は昨日風呂ヤではかつたら十四貫五百になつてゐました。ろくなものを食べなくとも、量だけでこの通りです。併し蛋白質不足のせい(ふ)か、頭がよく疲れて余り働きません。魚の配給は、みがきにしんを一本か二本。所が雑炊ばかりやつたので、ミソ醤油がなくなつて煮られない。銀座くんだりへ一串六〇銭のタタキダンゴでも食べに行くより仕方がない。それでも食べられるだけましなのでせう。それに此の数日は、お餅で肥つたのかも知れませんが。此の頃のお餅のたべ方は、朝、飯を水を多くして炊き、餅を二切乃至三切焼いて飯の上部の粥と一緒にして塩味でたべるのです。節米にもなり、調味料も要らず、餅自体も大きくなり(ふやけて)、中々よろしい。夜の雑炊へ入れる時もある。おかげでまだ二三日食べられます。

此の頃は防空は嚴重になりました。本室でも課長以下すべてが、毎夜四人か五人づつ泊ります。分室の連中も行かねばならないのです。僕だけは例外ですが。上北沢の分室では両方へ泊るので、人数は少いし、まるで隔日宿直のやうになります。尤もさう云へば僕は毎日宿直と云ふわけですが。日曜祭日も日直が嚴重になりました。これはどこの会社でもさうです。だけど、どこの会社でも、食事の心配をしてくれるのに調査会だけはしてくれないので、大分みんなぶう

く云つてゐます。空襲が二度も三度もあつた夜は、腹がへつてやり切れないさうです。

今日は鈴木正四君の届けて来た原稿を読まねばならない（今日迄は外の諸君の目をとほしてゐたので。すべて戦争史関係。村瀬君の原稿は書きなぐりで、どうも不誠実です）ので、之だけにします。小田中さんから手紙が来て、イリンのもの読みたいと云ふので、おついでに何か送つて下さい。彼女、この間中から松本へ帰つてゐるのです。どう云ふ風な子か、同封の手紙でも判断出来るでせう。白田君とは大分變つてゐます。

では又。それから森井さんにスメドレーをかりるのも、二、三日中に頼めるでせう。

### 幸子から謙一あて（一九四五年一月三日の記、一四日の消印）

一月十三日

又、手紙が書けなくつてすみません。本も読めませんでしたので、あなたのお手紙を唯一の楽しみに暮しました。昨日から起きましたが、本当に無気力になつて、心も身体も思ふ様に動きません。度々の御親切なお手紙に随分慰められて居ります。いろいろ御多忙の様ですが、お元気の様で何よりです。コールド・クリイムの瓶は、近日集めて送ります。柳屋のでいいですね。スメドレーはふさがつてゐるなら、かまひません。あれは三度程読んだので殆んど内容を知つてはゐるのですから。唯、今読んだら、どの程度前と異つたものを受けとれるだらうか、と云ふ位のところからのお願ひでありました。八路軍従軍が二畳の前のラジオ部屋の本棚の中段に埃をかぶつてのつてゐるのを見た記憶がありますが、おついでの時それをお送り下さい。彼女がカリエスの身で苦難の行程をゆくところを、お薬りにしたいと云つては彼女にわるいですが、何か力をつけるものがほしいのが今の最大の慾求です。セドフ号ももう一度読みまして、刺戟されはしましたが、あの人々の零下卅七、八度―四〇度の中で生活し得るすばらしい体力は、それ丈でも恐ろしい程の圧迫を加へます。で、むしろ病氣を持ったスメドレーの勇氣の方が、此の際助けになる様に思はれますので。

九日には私共も流星の様なB 29の姿を見ました。二機、八機、八機と云ふのが西から東、赤石連<sup>（峰）</sup>を越えるのや、南から東へ越えるのを眺めました。其の姿が消えるか消えぬ中に、帝都侵入とラジオが云ふのをきゝました。此の辺、此のごろの通路の様で、夜もひるも警報毎に爆音がきこえて来ます。

羽生さんの奥さんが四、五日ねついて肺炎で亡くなりました。元氣者でよく働いてゐましたのに。この辺、肺炎と流感

の大流行です。にんしん中の肺炎は100%駄目だとのこと、用心して何処へも出ず二階にばかりこもつてゐます。お父さんも風邪でもう一週間にあります。随分やせて本当のおぢいさん姿になりました。私も又、ひどい人相の変わり様ですから、此の近所の人は肺病で帰つて来たんだと噂してゐるとのことですわ。桃ちゃんとはどういゆけ相もあります。第一、あなたが私の様子を見て、ぞつとするだらうと思ふと嫌になります。あなたのまはりには特にはり切つた連中ばかりですから尚のこと。こちらにもおいでにならぬ様にして下さい。時には去年逢つた時、これが最後の様に思つたのが、あるひは本当になるかも知れないと思ふ事もあります。お風呂の時、日本画にある餓鬼みたいだと云はれましたので、自分ではそれ程にも思つてゐなかつたので、一寸嫌になりました。去年の始めからあなたにはいろいろ不愉快な印象を与へづめで、これが其の最後の仕あげの効果を与へるのだと思ふとやり切れません。当分、あなたには逢ひたくありません。エピキユールは私にも大へん面白うございました。あの中の方が、今までよんで来た彼の作品の中にみつけてゐたものであつた丈に、近しい人に逢つた様なよろこばしさを感ぜました。今日は「白き石の上」です。これは又、何とすばらしいでせう。思はず叫び度くなる位の共鳴を随所で示されて、ドキ／＼してしまひます。併し、ここに至るもつとも大切なプロセスは、現代史にあるのですから、それが無いのは本当に残念です。

こゝまで書いてゐたら十一日附のお手紙届きました(封は開いてゐました)。かわせ入りのも届いてゐます。本当に有難う。

フランスも、もうあとペンギンと神々はかわくと丈ですから、本当に淋しくなります。全部よみ切つてしまつたら、もう私の神々は消えてしまふ様な空キヨさを感じてせうと思つて、今から恐ろしいのです。

六時頃、本とたばこの小包届きました。白き石の上はこちらに有りましたのに。母も、もうよんでしまひました(去年の十月に)。ゴリキイ全集の中の一冊です。ジャンヌ・ダルクはうす汚い本ですね。フランスの何時ごろの作かしら？ 煙草を沢山有難う。今日配給ありましたが、きざみ一個でしたので、お父さん悲観してゐたところですよ。大へんすまながつてお礼を云つて居ります。

ゴリキイは私にはわかりません。一寸も共感持てません。「母」も人のほめるよさがわかりませんの。嫌味つぼくて、続けてよめません。「母」の母が新しい観念を得てゆくプロセスは、一ばんよいところなのでせうが、私はあの人を嫌ひです。することなすこと、気に入りませんでした。たどたどしい表現もいら立／＼しさを与へるばかりです、多分、これも又、私が変なのでせう。ロシアの小説家はたいてい、いら立／＼しい表現をしますね。アナトオル・フランスは表

現の点でも、私は好きです。わが友や昔物語語りなどの流れる様な、むだのない書き方は、病氣をしてゐる時など、とくに沈静剤の役目をしてくれます。これ程好きな人が世の中にあるかと思ふと、本当にうれしくなります。何しろあの人のためなら靴掃除もいとはない位のうちこみ方です。時々夢でアナトオル爺さんをみます。はつきり姿を見るのはありませんが、そこにゐる事を知つてゐるのです。そして、そばにゆき度いにおず／＼してゐて、もうゐなくなつた事を知つて、くやし涙にくれると云つたあなばいのです。

ジャン・クリストフを通して知つたロマン・ロオランは、廿一年間もの引きつづいての尊啓すべき唯一人の作家でありましたが、アナトオル・フランスは彼にもまして好きなく／＼愛する作家になりました。そして今、彼をよんだ事も時機から云つて、丁度よかつたと思ひます。もつと前なら、私は其の好ましさが1—10もわからなかつた事と思はれます。で、更にもつともつと私が勉強した□は、更に好きになれるであらうと思はれる事も、彼を好きな事の重要な一つでせう。西洋哲学史を前編丈でもよんで置いた事も大いに彼を理解する助けになりました。で、此のころ（特にタイース以後）はもうすこしギリシヤ哲学をよんでみたいと云ふ、私にしては空前の野心すら起させたのです。あの様な作家は段々とマンモスが後を絶つ様に、失はれてゆくのではないかと云ふ淋しさをも抱せられます。

「プシ」無事にあなたの手元にゆける様に。辻岡さんにあなたが رفتつたと云ふ手紙以来、毎夜、彼の夢を見てゐます。やつと抱いたら異つた猫であつたり、抱いて仔細に眺めるとひげも切られ、誰かの悪いたづらでバリカンで毛を肌までかりとられてゐたり、身体中大きな傷のあとをみつれたり、抱いても私を忘れてゐたり、概して悲観的ですので悲しくなつて目を覚めます。本当にぶじで経堂へゆき幸福な晩年をすごせる様に念じます。わざ／＼原宿まで رفتつた下さつた事丈でも、どれ位私をよるこぼせてくれたかわかりません。彼を抱いて経堂までゆくのは大変ね。彼があなたを、あなたとの生活を思い出してくれると良い。老年でもあるし、生れて始めての苦難の生活が、彼に忘却を与へぬように。昔の家のあとに来て、玄関で啼いてゐたとか、本当に／＼ふびんです。彼は私を覚えてゐるかしら。どんなにやせて亡者の様にみにくくならうとも、彼は私を昔の様に慕つてくれる様にも思へますけれど。私はプシの事を考へると（あなたに笑はれるでせうが、神秘的にならずにはゐられない。何故ならプシの心持は正確に知る事はおろか、1—10も知り得ないのですから）、プシこそ今までの生命あるものうち、一番私を成心なしに愛してくれた唯一つの生物、と云ふ気がするのです。で、彼の事を考へると、ひたすら感情が高ぶつて、むやみと泣きたくなるのです。困つたものです。ビュビュ・ド・モンパルナスはいいものゝ様ですね。よんだ様にも思ひますが、はつきりした記憶がありません。土井

さんの訳でなかつたかしら。昔よんだものは、もう一度読み返さないと、本当のところはわからないと云ふ事がありますね。よみ返さなくていいのもあるが。又20年も後によんだら、尚さう思ふかも知れない。

あなたの毎日は、忙しくても楽しいの？ 張り切つておるでなの？ 楽しさうに書いてはゐるが、全体から感じるものは暗い様に思はれる。忙しい様で、あつちこつち八方に手をひろげて、とんだりはねたりの様子を感じますけれど、本当の芯ところはちつともみえません。どうかすると、あなたの手紙の中から、あなたがドンキホーテの様に槍で水車をやつつける姿に見える時もあります。さうしてこちらに淋しくなりますけれど。生いきなわる口を云つてごめんなさい。私はふくろう(ふくろう)の様にちつと動かさず、眺めてゐる丈なんですから。

長くなりました。たまには芯の見える手紙をほしいものです。あなたのひまの時、きのむいた時、時間の余つた時、私を思い出してくれたなら。おあまりのしぼりかすの定期便はほしくありませんから。あなたが私の友達の一人なら、そんな事は問題ではありません。私も其の程度しか要求しないから。あなたは私の友達ではないのです。私はあなたの一ばん栄養のあるところを要求する権利があるのです。さうしてあなたがそれを拒むとき、私はあなたを責めても当然なのです。さうする私を、あなたはあれこれと理くつをつけてごまかしたり、非難する事は誤つてゐます。併し、それがあなたの考へと反するなら、あなたは賛成出来ぬのなら、私も又、さう云ふあなたを必要としないと云ひ切ります。とは云ふものゝ、実はどつちでもかまはない。小田中さんの云ふ様に、私も又どつちでもかまはない、と云ふ氣持もあります。

では今日はこれ丈。

### 幸子から謙一あて（一九四五年一月一四日の記、一五日の消印）

一月十四日（日）

十一日附手紙有難うございます。懷疑主義について沢山有難う。前便にもふれたと思ひますが、私もエピキユール以来（精確に云へばタキース後）、シユヴエグラをもう一度読む必要を痛感致してゐたところでしたから、丁度良い時によい材料を与へて下さつた事になります。私の「懷疑主義」に対して、ぼんやり思つた（さ）らゝた觀念の大いに誤つてゐた事を知りました。常識や既成觀念に満足せず本質、真実の究明を指すもの、真実の世界観獲得のための努力を指すもの（デモクリトスの）とは、まるで逆のもの、ピユロンのもの、印度の解脱思想的なもの、の方をスケプティズムの本質だ

と思つてみました。昔、学校で桑木先生の哲学の講義<sup>(8)</sup>に二、三回出た時、そんな風に聞いたので、それ以来ずつとさう思つてゐました(桑木先生も印度哲学に関して、さう云つたのでせうが、その時間にしか出席しなかつたので、外の事は聞いてゐなかつたのでせう)。だからアナトール・フランスが懷疑派の典型的代表者の様に紹介されて居るのを見て、全く逆だと思つて驚いたのです。全く哲学でも芸術でも其の時代を反映してゐるものですね。それだからこそ、私共に面白いのでせう。カイン派の意義はどんなものでせう。パイロンはカイン派の影響を受けたのかしら、など思ひましたが、それからロマン・ローランの「キャレンツア伯」に代表される印度思想(?)や、ロマン・ローランのガンジイ崇拜はどんなものなのでせう。これは特別知り度い程でもありませんが、つい手の時教へて下さい。

今日は下痢もなをつてゐず、あまり安眠も出来なかつたのに、気分は大変に明朗です。こんな日は一ヶ月以来始めてです。毎日、不健康的なゆううつに悩まされぬ日はありませんでしたのに。これでもうすこし身体に力がつけば申し分ない様に思へます。此の調子が永続してくれ、ばいいと、ひたすら望みます。全く健全なる身体に健全なる魂宿る、と云ふ事は名言です。私にわろい手紙を書いても私のせいではありませんよ。それは私の不健康が書かせるのですから。気のせいとか手鏡を見ると、蒼ざめた顔乍ら目は生々と光つてゐる様に見えます。ずつと暫くの間、生きたくもないと思つてゐましたが、今日はそんな事は考へられません。私はあなたにとつては唯邪魔者であるとはばかり思はれてゐましたけれど、今日は若しさうであつても、それ丈で自分を否定し去る心持はない様です。あなたの本心がたとひ私の望む如くでなかつたとしても、それ丈で自己の一切を否定する様な淋しい自棄からは救はれて来ました。私には私の他の方法があると思はれて来ました。今まであなたがどんなに言葉をつくして慰めて下さつても、私の芯は慰みませんでした。あなたにはあなたの生き方、信念があるのだし、私も其の通りになれなかつたとしても、それは自分が無カチなためではないと云ふ風な、対立感もありました。あなたの事を一方的なおしつけがましき、無理解、独善、利己主義だとして、ひどく不愉快を感じてゐましたけれど、それも私の考へ違ひであつたと思はれて来ました。

一と口に云へば、あなたに対する不信は消えてしまひました。かう書くとおあなたをひどく不愉快にさせる事では、もうすこし心棒強<sup>(9)</sup>くきいてゐて下さい。私にあなたを、一方的で押しつけがましき無理解で独善で云々と云つた事は、私のそれであつたのでせうから。私の作つた観念であつたのでせうから。今まで私はかう思つてゐました。あなたは私に対しては、実に心棒強くない。一寸もゆつくりきいてくれない。あなたの考へ通りを私に押しつけ様と望み、併も充分私に納得させる事を惜しむ。理解し得ぬのは私の偏見と誤解のためであると即座に決定したがる。私からあな

たの望み通りの答への出ぬ時は、あなたはぢれてぢだんだを踏み、一切はお前が卑怯で無理解で自分を束縛するのがいけないのだと云ふ。質疑も、こちらのあり様の報告にもべもなく、それは無駄であると封じてしまふ。納得したいと望む事を、勉強の邪まをすと怒りつける。私は服従でなくて納得を求めたのに。従つて私は前の様に隔意なく、凡ての事に就いて思ふまゝを云へないと云ふ不自由を覚えさせられる。納得したから云はないのではなくて、封じられたから云へないと云ふ不まんを与へられる。そしてあなたは私に唯信ぜよくと云ふ。私はルーテル教会へ行つた事を思い出した位、信ぜよ信ぜよとあなたは云ふ。あなたの望む通りの答をしない時、あなたは保守的だ、卑怯だと罵り返す丈で、納得と云ふものを与へない。従つて私は対等の位置から、自由に云ふ位置から、服従を、封じられる位置を覚らせられる。それやこれや不健康やらがよりあはさつて、自己嫌悪と云ふ□<sup>(病カ)</sup>に落ちてゐたのと思はれます。併し、もうそんな事は一寸も心にかゝらぬと云ふき持がします。一寸身体の具合がいいと、こんなに現金なものでせうかしらね。私はあなたより他に愛情を注ぐ対象がなかつたから、あなたが私の一切であつたから、あなたの言動は私に大きな影響を与へてゐた、と云ふわけでせうか。私はあなたを余りにも愛しすぎたから、あまりにも□<sup>(病カ)</sup>しく求めすぎ、併も思ふ様に与へられぬと云つて苦しんで来たのでせう。さう云ふ私の愛し方が誤つてゐたのでせう。あなたの様に手広く四方八方愛情を注げる人は、そんな事は思ひもよらぬ事です。これはヒナンではありませんの、羨望です。私もさう云ふ風に人を愛したい。人をさう云ふ風に愛する事が出来れば、私も大きくなれるでせう。でも私にはそんなに愛せる人が見出せないのです。だから一人を唯一の者として、それを失はまいと苦しむのです。

でも今日はさう云ふ様な苦しみから、どうした風の吹きまはしか解脱(?)<sup>(病カ)</sup>したような気が致します。あなた一人を求めすぎるために、あなたを苦しめ、自分を苦しめるのが馬鹿げて見えて来ました。私はあなたに取つて、又他の人々とつても、どの程度のものか解つて来たらしいのですわ。人は自分を宇宙の中心と見度がるもの、世界の中枢であると信じてゐる人々―これは万人共通の錯覚だと、アナトオル爺さんは教へてくれました。私もさうなのです。で、どうやら宇宙の中心でも世界の中枢でもない、とるに足らぬものであると云ふ事がうすく、わかりかけて来たのでせう。これからすこし考へ方を変へて、自分が重要な存在の様な、自分が中心でなくてはならぬ様な錯覚から、早々に抜け出さなくてはなりません。あなたの事も私一人の所有物の様な考へ方は捨てますわ。まあ今後も今日の様に、のんびり明るい心持で、一切を眺め度いものです。

あなたにはあるひはにくまれ口を叩いて気をわるくさせたかも知れませんが、ゆるして下さい。これからは至極謙そ



んにならうと思ひます。いろいろ新らしい勉強プランも樹て様と思ふ心持も出て来てうれしくなります。今年度は二月から新に始めます。一月中はあなたの Plantation をすつかりすませ（気に入るまで）片つけます。大体新らしいプランの主目は決りました。其の中御報告致しますせう。

それはそうとM・E(原文)芸術論はM・E全集にありますかしら。これは其の中やりたいのですが。赤ん坊の支度もあるけれど、これはまだどうなるか未定だから、三月が終つて見込が立つたら支度にかかります（未定と云ふのは、あまりに其のためのすい弱が激しく消耗する様なら、考へものだと云はれてゐます。大体大丈夫だと私は思つてゐますが、榮養もわるいし身体の弱りも激しいから、ぶんべん力がないかも知れないとか云つてゐますが、まだくそこまではゆかぬものと私は思つてゐます。途中で亡くする様な手段はどんな事があつてもとりません）。若しも身体が駄目であつても、出来る丈は勉強しますわ。

結局私の敵は「私の認識力の不足、世界観の未熟」であつて、他にはない事がすこし解つた様ですから。それでひたすら他に求めた諸悪を、己の裡に見つけ、それを征服する他に、私の安住はない様に思ひます。さう思つたら、あなたにも大変悪たれた手紙を書いて来た事がすまなく考へられます。何時でも私はあなたの重荷で、障害物でしかなかつた事を思ひます。そして、其のために悲しむのは辞めます。重荷や障害物でなくなる様にする事は、あなたのためではなくつて、むしろ私のためでせう。―其の方向しか進路がないと云ふ事が解つて来た様です。出来る限りやつてみませう。又負けても、もう一度やりませう。

では今日はこれでさようなら。又明日、書きませう。  
此のごろの頭の悪さ、前にもまして理解力のたどたどしい事には、我乍ら嘆かれます。

### 謙一から幸子あて（一九四五年一月一四日の記）

一月十四日（日）晴

ここ暫く空襲もなく、おかげで身体はやすまります。昨日はまた大分大きい地震が名古屋にあつたのですね。空からと地下からと、ずい分しつっこくいぢめられるものです。

されはさうと、今日でもう四日も、郵便受けにすつぽかされて来ました。また身体が悪いのではありませんか。それと

も僕の手紙が届かないのでせうか。僕は今年度へ入つて之で七通目、中に書留一通あつた筈です。あなたのは八日付の以後が来てゐません。八日付のによると、僕の三日頃に出したのが、まだそちらへ届いてゐないやうです。

お父さんの御風邪はいかがですか。こちら雨がふらないので、風邪が流行してゐるやうです。僕は幸ひ元氣です。あなたも風邪をひかないやうに。お母さんも不二ちゃんも桃ちゃんも御元氣ですか。桃ちゃんも大変な忙しさでせう。いつ頃上京出来ますか。あなたはついて来れませんか。今ならまだ空襲も大したことないし、身体の調子が許せたら出て来ませんか。帰りに僕も一緒に行けるかも知れませんが。防空当番だけを頼めばいいのですから。

昨日（土曜）銀座へおひるから出て、この間見つけておいた砂鉄アイロンと云ふのを買ひました。電気アイロンはつかへたりいろ／＼が面仆めんぼくですが、砂鉄アイロンと云ふのは、陶器で出来てゐて、下面が砂鉄を含んだ釉ユリがかかつてゐて、この部分をガスマスは炭火に直接あてて熱し、そのままアイロンとして使へる、電気やガスの制限の面仆めんぼくなくて、姿もよろしく、安くて使ひよささうです。之で今朝洗濯したワイシャツにアイロンをかけました。

そのアイロンを買つて帰ると、小使さんが隣組の下駄の抽センに、僕に子供用の下駄が当つたと云つて、本当に小さい赤ん坊用の男下駄（ハナヲナシ）を渡してくれました。「隣組に五足しか来なかつたのに、うまくあつたのですけれど、こんな小さい赤ちゃん下駄ぢやしようがありませんね。みなさんも、菊池さんに赤ちゃん下駄ぢやお困りだらうて大笑ひだつたのですよ」「いえ／＼困りませんよ。僕にも赤ん坊が出来るんですから」「え、赤ちゃんがお出来なんです。いつなんです」「さあ、この夏頃かな」「まあ／＼、それはそれは、おめでたうございます。本当によくお出来になつたこと。それぢやきつと男のお子さんですよ。ちゃんと男の赤ちゃん下駄がお当りになつたのですもの。縁起がよろしいぢやありませんか。前お祝ひになりましたねえ。それはそれは」「いやどうもありがたう。成程可愛い下駄ですね。大切にとつておきませう」。

今日は午前中に利ちゃんが出来ました。彼は十日から勤勞奉仕で品川の何とか工場に通つてゐます。始めは吉祥寺の中島だと云つて、大分危ない話だつたのですが、品川なら通ふのにも近いし危険率も少い。だが、朝八時から夕方六時半までとかで、帰ると八時か八時半、何にも出来ないさうで中々大変です。休みは月二回、第二と第四日曜。信州へは四日の日に手紙を出したとのこと、之もつきまじりましたか。

「兄さん、今日はおひまですか」「ひまと云へばひまだが、忙しいと云へば忙しいね。どうして」「おひまなら話をして下さい」「はなし。うーん」「もうずつと学校の方もなささうで、自分で何か勉強したいのですが、時間がなくてちよつ

と出来さうもないのです」「ふうん。ぢや君は一体何を知りたいね。どう云ふ問題が君にとつて一番切実な問題かね。一番知りたい、知らなきやならんことかね」「さあ。……」「さう云ふ風に考へてみたこともないのだらう。自分は一体何を欲求してゐるのか、と自分に問うたことあるかね。はつきりとはないのだらう」「さうですね、ありませんね」「ところが君はやつぱり内質から欲求してゐるんだ。今のままぢや不満なのだ。さうだらう。大体若い人が何かを知りたいと云ふ時は、二つのことを欲求してゐると見ていい。第一は世界の系統的な観方、即ち世界観だね、第二は自分の日常生活なり現実生活なりに於て、いかに生きて行くか、いかに身を処して行つたらいいか」「さうですね、僕はやつぱり世界観がほしいんです」「さうだ、その欲求が一番正しい。だがその世界観を、正しい本当の世界観を得て行くには、三つのことをせねばならない。第一は自分の生活をいかに生きるか、之は出来るだけ誠実に、妥協やごまかしやいい加減を排して、どこまでも誠実に生きること。第二は読書だ、之は第一の生活を誠実にやつて行くことの結果、読みたい知りたいものを読む。之と同じやうな意味で、人の話をきくのもいい。第三は思索だ、第一、第二を第三の思索で統一するんだ」。以下、勤労学徒として誠実に生きるにはいかにすべきか、そこでどんな問題をつかみ、どんな問題について考へるべきか、それを誠実に生き、誠実に考へれば、必ず現在の戦争と云ふもの、社会関係と云ふもの、世界の歴史と云ふものがいかなるものであるかを考へざるを得なくなる。さうしてはじめて、社会や歴史について書かれた立派な本を読む内質からの欲求と、従つて理解力が出る。さうしながら時々僕の所へ来て、質問するなり考へたことを云ふなりしたまへ。と云ふ風に二時間近くしゃべりました。

利ちゃんもあの年頃の男の子として当然考へられるやうに、異性ととの交はりを、情緒を欲求してゐる。所が彼のまはりには、解放されてゐない。その結果彼はみつちやんなりいねちゃんなりを訪ねる。恐らく此の頃、僕の所へ来るより、そのどちらかへ行く方が多いでせう。それもよし。そして時々知的欲求から僕の所へもあらはれる。知識の方が、情緒よりは冷い。それでも来るのだからいい。利ちゃんも時間があつて、僕が近日中からやらうと思つてゐる「プランティション」の講義に参加出来るといひのだが。

今若い人達の抱いてゐる充たされぬ欲求は、きつと他のいかなる時代よりも切実なのでせう。他の時代には外部にいろんな機会があつて、多かれ少なかれ欲求を充す手段がなくはなかつた。今はそれが無い。だから僕なんかのやや乱暴なせつちちな、技術的にもまづく力のないおしやべりすが、訴へるところあるのでせう。それにしても話してくれと云はれて、いつも自分のもつてゐるものの貧困さに当惑する。その上大ていの場合若い人達は、自分の欲求をはつきりと

言表も出来ない。だから元来カンの悪い僕には、相手の欲求に適確に応答することは甚だ困難です。それに僕の書いたものも、概してさう云ふ若い人に啓蒙的に読ませるやうなものでない。伊藤君も僕のアメリカ史を若い人に読ませたいが、少しむつかしすぎると云つてゐた。

こんな風なので、竹中君の場合にせよ白田君の場合にせよ、効果の少いことを思ひ知らされねばならないのでせう。ひろちゃんも僕の芸術論にはついて来なかつた。森井さんすらついて来ようとしなない。僕のプランティションの講義が、どれだけの効果をもつかどうか。あなたのやうな熱意を他の人には期待出来ないのだし。

啓蒙的に話したりすることでは、あなたの方がはるかに有能です。僕はあなたが信州でお母さんや桃ちゃんにまで「プランティション」への関心をもたせるのをきいて、いや「プランティション」だけでなく「田舎医師」やその他の例でもさうなのだが、あなたの方が上だどつくづく思ふ。しやべりかたなのか、把握のしかたなのか。僕は少しせつかちにたたみかけて云ひすぎるのかしら。あなたが時々僕に云ひましたね、僕の云ふことは強情で押しつけ的なところがあると。さう云へば僕が之までしやべつて来た大部分の相手に対して、僕は効果をもたなかつた気がする。森ちゃんやみつちちゃんもさうだし、いねちゃんもさうだし、島谷、齊藤その他大ぜいの若い人達、そして今竹中君、白田君、利ちゃん、ひろちゃん等々。それに人間の魅力の貧困さも聯関してゐるのでせう。

森井さんが、僕のことを検事のやうだと云つたりするのも、理由あることなのでせう。彼女の僕のやりかたへの異議（彼女自身では異議ぢやないとも云ふが、やつぱり僕には異議と感ずる）は、結局この八年間、あなたから始終出てゐた異議、それを僕が強引な弁証でうけつけて来た異議、と相通ずるのかも知れない。さうとすればもう一度、あなたの異議、彼女の異議をはつきりききただして、自分で反省せねばならない。さう云へば昨年の春、あなたと利ちゃんとに対してやつたアメリカ史の講義も、あなたや利ちゃんを積極的に乗り気にさせる魅力をもたなかつたし、「プランティション」をあなたに本当に読んでもらふまでもない分時間もかかつたし。

すべて僕を反省させるべき材料として思ひうかんで来ます。あなたの現在の意見をききたいと思ひます。では又

幸子から謙一あて（一九四五年一月一五日の記・消印）

十二月十五日（晴）

昨夜五分位の厚みに小雪が降つたらしく外は白砂糖をまぶした様に明るい。昨日の名古屋の空襲80機とかの中五、六機は追はれて、ちようど浪合の平谷の上空辺で（名古屋、静岡、長野の重なり目のところ）空中戦をやつてゐたらしく、今宮の原つばで見えたと朝ちゃんがつつてゐました。9日のもあの辺に一機落ちてB29の搭乗員がパラシュートで下りるのも見えた相です。機は愛知と静岡の境ひに落ちたとのことです。熱田神宮がこはされたとラジオで云つてた相ですね。神々も疎解しなくてはなりませんね。此の辺の話題も至極暗い悲観的なものになりました。

今日も健康状態は上上吉の様で起きるのも苦痛でなく、脊骨の痛みも激しくないし、食事は何時もずつと皆の $\frac{1}{3}$ — $\frac{1}{4}$ だつたのに、今日は普通に食べられました。お豆腐のおみをつくと梅干とたくわん漬なのに、楽にスル／＼胃の中へ吸収された様で、始めておいしいと感じました。これがずつと続いて呉れたらと切望します。今まで呼ばれて食卓に座るけれど、お茶を飲んだりして誤魔化し乍ら、よう／＼食べてゐたのですもの。食後は胃が重くて、頭痛や脊中の圧迫感でチヨイ／＼仰むきに30分位づつねてゐなくては、本も手紙も続きませんでした。昨日は一度もねずにすみました。本当に此の調子さへ続けば、一切良くなると云ふ風な気持ちになります。

ヘーゲルは家にあるのは大倫理学と歴史哲学文でせうか。ヘーゲルは主要なもので、私の読めさうなものは、何をよめばいいのですか。急ぎませんからお知らせ下さい。

本年度は哲学史を主にしたいと思ひます。シュヴエグラを始め読み、フォアレンダーあたりへゆき、家にあるもので順序をつけて読むか、或は哲学史を一応やつてゐるうちに、あとのプランを樹てるか。其の中にヘーゲルへゆき、ヘーゲルをすこし本年中に噛り度いと思ひます。あなたの知慧をかして、「大体の私の要求をいれて」順序やよむべきものを教へて下さいませんか。若し此のプランがまだ早い様なら、もつとのばしてもかまはないのです。又それに代るもので、是非やつた方がいいものがあつたら云つて下さい。

副は、経済学入門をまづ最初にやつてしまふこと、M・E芸術論を一週間に二回位の割ではさみたいこと、あとは其の時々の必要に応じて出て来るものをやりたいのです。若し来年も丈夫で生きてゐたら、来年は資本論にかかりたいと思ひますが、本年のプランの哲学の方が進捗しなければさらいねんにしませう。

あなたの書くものは其の都度、間には喜んで勉強するつもりです。今日からプランテイションの方、カード其の他まとめにかかつて、終つたらアメリカ史を讀するつもり。これは、もうノオトなしでも、こなせる様に思はれます。試験の様に細い事まで覚えなくても、主流を掴む丈でいいかと思ひますから。どうでせうか。あなたの方からかうすれば

よりいい、といふ注文があつたら早速云つて下さい。

私はあなたのプランテーションにも感謝してゐますが、アナトオール爺さんにも本当に感謝してゐます。どれ程彼からいいものを貰つたでせう。どれ程のはげましを知らずくうけたでせう、と思ひます。又一方、彼からのおくりものの価値を知るに至つた路は、プランテーションを越えて来た事にあるのだと云ふ信念も動かさません。あれは私の認識力に、ある一段階昇進をさせてくれたのです。

これが不健康やら、いろいろの嫌なトラブルがなかつたら、もつとく大きかつたか知れませんか。本当に此の半年と云ふもの、一般的に云つて幸福ではありませんでしたから。がきの様に苦しみから真球を生む様な、そんな結果を得たなら、苦惱こそ人生に意義を与へると云へませうが、私は何を待たのか。すこしでも進めたのならよろこばしい事です。さう答へる自信はありません。今日はこれでやめて、PLANETATIONにかゝりませう。 さようなら

### 幸子から謙一あて（一九四五年一月一五〜一六日の記）

十二日附お手紙、十五日前（午晩）十時に届きました。どうも有難う。前便で、自分の認識力を養ふために哲学の勉強プランの事を書きましたが、今日のお手紙は尚其の決心を強めてくれました。勿論現実の生活との斗（闘）ひも大切であります。私の場合には基本的な教養の不足が甚しいのです。今日のでアナトオール・フランスの懷疑主義のありようも、其の意義もよくわかりました。

世界観努力と生活努力の統一の事は、大変啓発されるどころありません。此の意味からも、今度のプランは適切な様に見えるが、細い順序、方法の教示をまします。

悪阻と云ふのを今日調べて見ました。大体自覚症状と同じところを抜いてみますと

悪阻はアレルギイ性疾患で、此のアレルギイ反応が個人に依つて差のあること、悪阻は一般にヒステリイの一徴候でもあつて、精神的影響が特に激しく作用する。悪阻の直接原因でないもので、胃腸疾患（胃下垂）等は誘因となり合併症としてひどくする。軽症は嘔吐、口渴、胃痛、便秘、下痢、全身衰弱感等がある相で、これは全部該当します。療法は薬物の外血清がある。健康妊婦の血清、妊馬の血清、配陽者の血清（これは胎児蛋白に父親の因子を含むから）、輸血療法。